

★RSY事務局便り★1月

「新燃岳大噴火から1年…」

2011年1月26日、宮崎県・鹿児島県にまたがる霧島連山・新燃岳が大規模噴火をしてから1年が経ちます。現在は小康状態が続きますが、まだ大きな噴火の可能性も。降灰の被害に苦しんだ高原（たかはる）町（宮崎県）のみなさんは今どのように過ごされているのでしょうか？



震災がつなぐ全国ネットワークのメンバーが昨年の2～3月にかけて継続的に支援活動を行いました。拠点となったのは高原町のお寺・光明寺。足湯ボランティアを中心に、住民のみなさんにたくさんのことを教えていただきました。

★灰干しプロジェクト★ 合言葉は「ピンチをチャンスに！」

なぜなぜ？不思議。セロファンと新聞紙を重ねて灰の中に眠らせた魚や肉が柔らかく美味しくなるのです！

実は過去には三宅島の噴火による灰を利用して灰干しが作られたこともあります。大学の先生から教えてもらったことをきっかけにして、今、灰を利用した「灰干し」が広がっています！最初は興味をもった方だけが中心でしたが、最近は町内の精肉店も協力しています！高原の特産品になる日も近いかも！



★工房をオープンさせた方もいます★



昨年2月、灰降ろしのお手伝いをさせていただいたお宅の方がご自宅に工房をオープンさせました！ガーゼを使った洋服や小物を使ってすてきな商品を作っています。「自分にできることを何かしたい」というおもいで少しずつまわりの人にも広めていきたいとのことです。

なんと雑誌にも
紹介された
そうです！

